

令和4年度学校評価(最終評価)

2023年3月

項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
<p>知肢併置の特別支援学校として、多様性を重視した魅力あふれる教育の充実</p> <p>教務部 総務部 教育情報部</p>	<p>・特色ある教育活動の推進</p>	<p>・行事等の合同学習機会を設定する。 ・日常の学習活動で交流機会を創出する。 ・スポーツ、アート、読書など生涯学習につながる活動機会(企画展等)を設定する。</p>	<p>・運動会での合同種目や文化祭での全体制作等、共に活動する場を適切に設定できた。日常の学習場面においても互いに学び合う実践ができた。(小学部:学年集会、中学部:特別活動、生活単元学習、高等部:校内実習等)。 ・部活動、作品展示、読書週間など、両部門の児童生徒の活動機会を増やすとともに、関わり合う機会を設定することができた。 ・校内研究や職員研修で、それぞれの部門の学習基盤づくりを見直した。両部門が共に学ぶ利点や改善点を踏まえ、併置校のメリットを生かした環境づくりをさらに進めていく。</p>
<p>専門性を発揮・向上し、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の推進</p> <p>教務部 自立活動部 研修部 教育情報部</p>	<p>・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の活用</p>	<p>・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の様式を作成する。 ・自立活動の指導計画作成の手続きを示す。</p>	<p>・見やすく分かりやすい様式になるよう検討を重ね、作成することができた。各部門で項目を分けて実態が把握しやすい資料として活用できるようにした。作成した個別の教育支援計画、個別の指導計画を基に一年間の学習の様子や状況を各家庭と確認できた。 ・自立活動の学習の捉え方について研修で確認し、個別の年間指導計画の作成に向けて手順を示した。肢体は個別に作成することで個々の課題が明確になり、各授業との関連を考えながら計画できている。知的は指導すべき課題を記載し、各グループでどのような困難さを克服するために指導するのかを明確にして計画できている。</p>
<p>保護者・地域社会とつながり、信頼される学校づくりの推進</p> <p>生活指導部 進路指導部 相談支援部 副校長・教頭</p>	<p>・人権教育の推進といじめ・体罰の予防推進</p>	<p>・人権尊重の観点による職員研修を実施する。 ・生活アンケートを年2回実施する。</p>	<p>・不祥事防止のセルフチェックを2回実施し、教職員向け人権講話(現職研修)を人権週間に合わせて実施した。児童生徒向け人権講話を校内放送を活用して実施した。 ・生活アンケートの実施結果、不登校傾向の児童生徒情報等を踏まえ、生活指導委員会で対応等を協議した。</p>
<p>一人一人の安全・安心な生活指導体制、教育環境の整備</p> <p>生活指導部 保健体育部</p>	<p>・安全・安心な生活指導体制の構築 ・感染症予防を含め、安心できる保健体制の構築</p>	<p>・スクールバスの安全で安定的な運行を確立する。 ・自力通学生に関する登下校指導を実施する。 ・通学環境を整備する。(SB・送迎車両対応、安全表示) ・災害時、緊急時訓練を計画的に実施し、感染症予防・対策を含めた危機管理マニュアルを作成する。</p>	<p>・経路情報の収集、バス停到着時刻の記録と対応により、ほぼ定刻運行できた。また、渋滞や工事等が生じた場合は、速やかに保護者に連絡する体制を整えることができた。 ・毎日の下校指導や学期始めの起点駅までの通学指導を実施した。大きな事故なく一人通学できている。緊急時(荒天時、災害発生、Jアラート)の対応について、さらに安全教育を進めていく必要がある。 ・継続的な感染症対策や学校安全に必要な訓練を実施していく中で、危機管理マニュアルを作成することができた。実態が異なる両部門の意見を集約し、充実したマニュアルに改善する。</p>
<p>効率的な組織体制の確立</p> <p>副校長、教頭</p>	<p>・機能的、効率的な部・校務分掌組織の構築 ・ICT環境を活用した業務遂行</p>	<p>・業務内容を明確にし、効率的な組織を整備する。 ・グループウェア、教育系NASを利用するなど、打ち合わせや会議、資料作成等を効率的に行う。</p>	<p>・両部門合同、部門それぞれの業務を効率的に進めるよう手探りの工夫をしてきたが、業務改善できているという実感を掴むまでには至らなかった。引き続き、分掌ごとに業務一覧を見直し、併置校として機能的な分掌組織・役割分担を構築していく。 ・グループウェア、教育系NASの積極的利用が学校全体で定着しつつあり、ペーパーレスへの意識が高まった。</p>
<p>総合評価</p>	<p>①特色ある教育活動:学校行事、日常の学習場面において、両部門の児童生徒が共に活動し、学び合う実践をすることができた。併置校のメリット・デメリットを整理し、日々の教育活動に反映していく。 ②一人一人を大切に教育:個別の教育支援計画・指導計画及び自立活動の整備、知肢の専門性を重視した研修、ICT教育の推進及び使用環境整備を迅速に進めることができた。 ③地域とのつながり:地域の農産業と連携した学習活動、進路指導充実のための関係構築、地域支援のためのセンター的機能の整備を推進することができた。 ④安全・安心な学校:SB運行、一人通学の体制、緊急時対応、医療的ケア実施体制、給食センターと連携した給食体制を確立することができた。</p>		